

汗による衣服の変色

【事例1】

茶色のスーツをクリーニングに出したところ、背中、えり、腿や膝裏の色が抜けて黄色っぽくなっていた。その場で苦情を言ったが、業者の説明に納得できない。

【事例2】

ワンピースをドライクリーニングに出したところ、腋の下のあたりが変色して戻ってきた。また、ラメのキラキラ感も失われている。クリーニング店に苦情を言うと、預かった時からシミがあったという。クリーニングに出す前日に着用しただけなので、クリーニングの処理に問題があるのではないか。

両方の事例とも、当センターで商品テストを行った結果、「汗」による変色と推測されました。

夏物衣料に多い事例ですが、中には秋冬物でも発生します。

これから、夏物衣料をクリーニングに出す時期ですので、以下を参考にしてトラブルを防ぎましょう。

【消費者へのアドバイス】

- ① 汗の成分は洗濯（水洗い）では落ちますが、ドライクリーニングではほとんど除去できません。
 - ・ クリーニングに出す時は、「汗を除去したい」旨を伝え、効果のある処理（「汗抜き」「本洗い」など店により呼び方が違う）を依頼する。
 - ・ 夏物衣料はできるだけ水洗いができるものを選ぶ。
 - ・ 水洗いできない衣料品の場合、インナーを工夫するなどの方法で汗の付着を少なくする。
- ② 汗や飲食物等の付着は時間が経過するにつれ、衣類が変退色する可能性が高くなる。
 - ・ 汗や飲食物等が付着したら、なるべく早くクリーニングに出す。
 - ・ 汗は時間が経過すると、シミのように見えるため、しみ抜きを依頼する場合、何のシミかをクリーニング店に申し出る。
- ③ クリーニングに出す時と引き取る時には、店と消費者がお互いに品物の状態を確認する。
 - ・ 時間が長いからといって、出したものの数だけを確認するのはトラブルのもとになる。
 - ・ クリーニングに出す時に、既に変色している場合もある。
 - ・ クリーニングから引き取る時、汚れの落ち具合や、預けた品物かどうかをよく確認する。